

ゆきとどいた教育をすすめる北海道連絡会ニュース

NO. 7 2021年9月29日 ゆきとどいた教育をすすめる北海道連絡会

教育全国署名で国会議員要請を行っています

9月から国会議員や総選挙候補者に教育全国署名の要請行動を開始しました。今回は立憲民主の国会議員と懇談内容を紹介します。今回の要請で、池田・松木議員に初めて紹介議員になっていただくなどの成果もあり、教育全国署名の要求内容が共感を広げています。

◆池田まき議員 子どもの学ぶ場の保障が憲法の本質

9月21日（火）、池田真紀議員（衆議院：立憲）事務所を訪問し、「ゆきとどいた教育」の要請を行いました。訪問したのは、事務局長の新保（道教組）と事務局次長の道端（道高教組）です。

私たちからは、国が決めた少人数学級が35人ではまだまだ不十分なこと、教職員がコロナ対応やGIGAスクール構想への対応などでますますゆとりがないこと、高校では各自が端末を買わなければならないことなどを説明し、紹介議員（初）を承諾していただきました。

池田議員からは、「政府は『子ども庁』を目玉に来年から立ち上げるようとしているが、少しいやらしい感じもある」「自民党は前回の選挙で教育の無償化を謳っていたが、まったく改革はなかった。すべての子どもの学ぶ場を保障するという憲法の本質にそうすることが当然です」と述べていました。



懇談中の池田議員（右）

◆松木謙公議員 学生の貧困問題で強い関心

9月24日（金）、松木謙公議員（衆議院：立憲）事務所で「ゆきとどいた教育」の要請を行いました。松木議員は東京に出かける直前でしたが、要請行動に呼んでいただき、教育全国署名の趣旨に賛同をいただき、紹介議員も承諾（初）していただきました。

松木議員からは、「お話の内容（教育全国署名）には賛同いたします」。「衆議院では環境委員会に所属し、SDGsが大事だと考えている。私の奥さんが福島県出身で、福島の義母は避難した後に亡くなり、義父はガンで亡くなりました。放射能の直接的な影響があったかどうか分からないが・・・」。「今、コロナ禍で学生は本当に大変です。私、千歳リハビリテーション大学の理事長なのですが、苦しい学生のため大学から5万円支給したんです」と述べていました。



懇談中の松木議員（左）

◆道下大樹議員 教育予算増額要求等で賛同

9月27日（月）、尾張代表（道高教組）、新保事務局長の2名で道下大樹議員（衆議院：立憲）事務所を訪問しました。少人数学級や教育予算増額、高校生へのタブレット端末自己負担問題・大学生への奨学金などで議員からも賛同の意見が語られました。

道下議員は「地域から高校がなくなれば町が衰退する」「親の賃金を上げなければ大変で、子育て政策が重要」「（学校で）今の社会・経済に必要な人材育成はおかしい」と述べていました。

全道で教育全国署名を広げてください！（1次〆切11月末です）